



Nissan Chemical
CORPORATION

未来のための、はじめてをつくる。

個人投資家の皆様へ 日産化学（株）(証券コード:4021) 会社説明会資料

説明者 日産化学(株)
サステナビリティ・IR部
IRグループリーダー
上出 未来

2025年3月2日



Contents

01	沿革・会社概要	P3
02	当社の特徴	P5
03	主要セグメント概況	P13
04	2024年度通期業績予想サマリー	P29
05	ESGトピックス	P31
06	参考資料	P36

1887

東京人造肥料会社設立

1937

日産化学工業株式会社に改称

1965

石油化学事業へ進出

1988

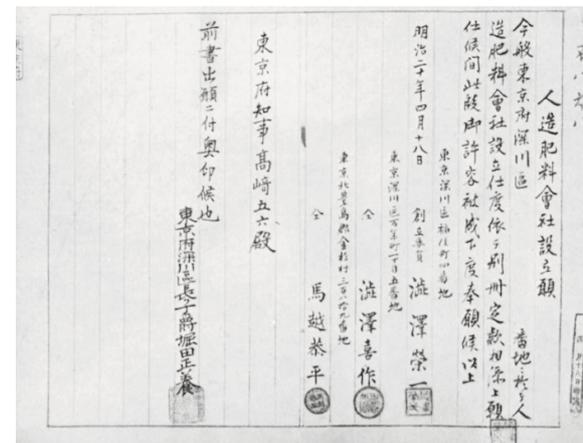
石油化学事業から撤退

1989

事業構造の転換

2018

日産化学株式会社に名称を変更

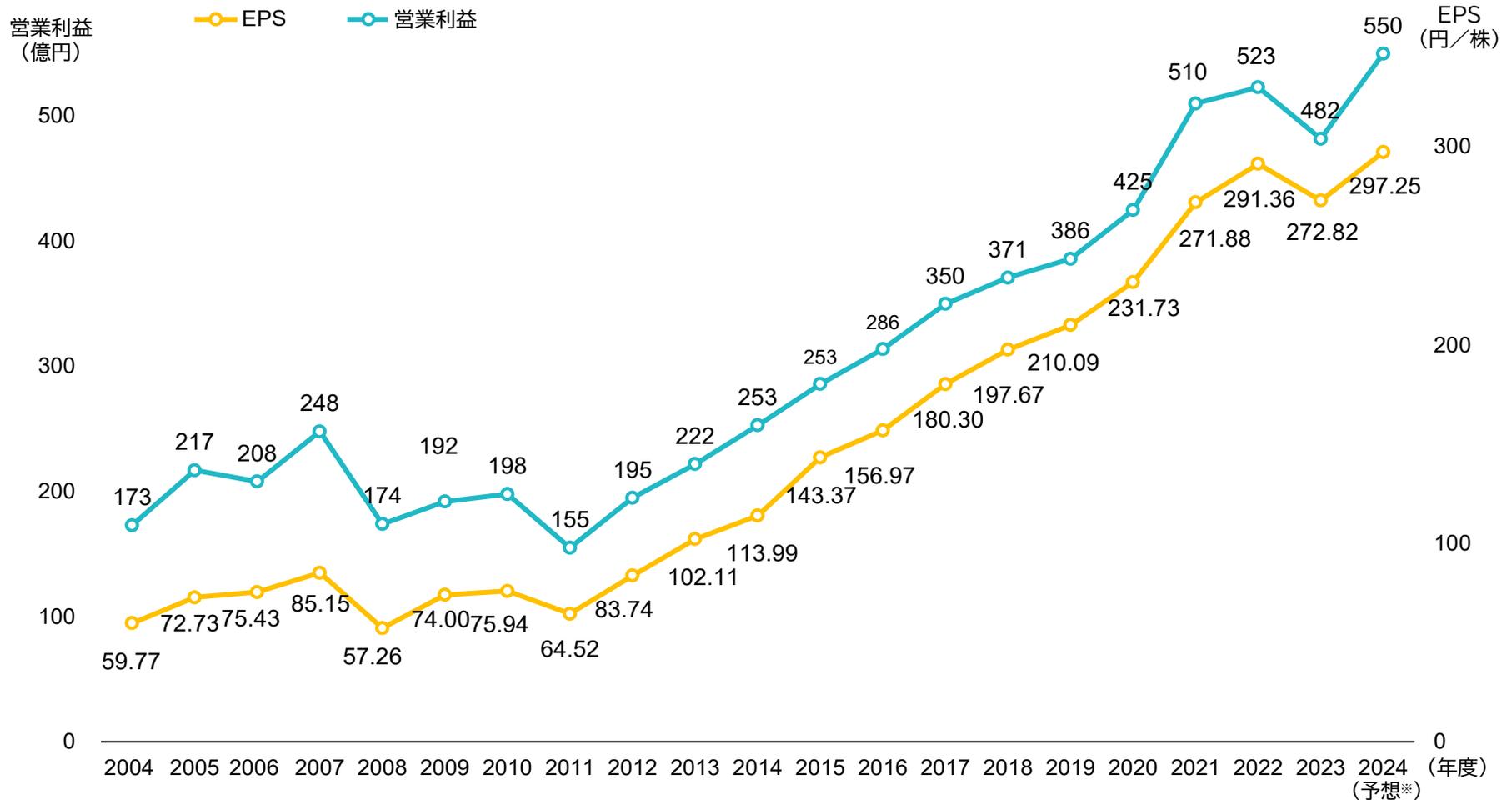


澁澤栄一

高峰讓吉

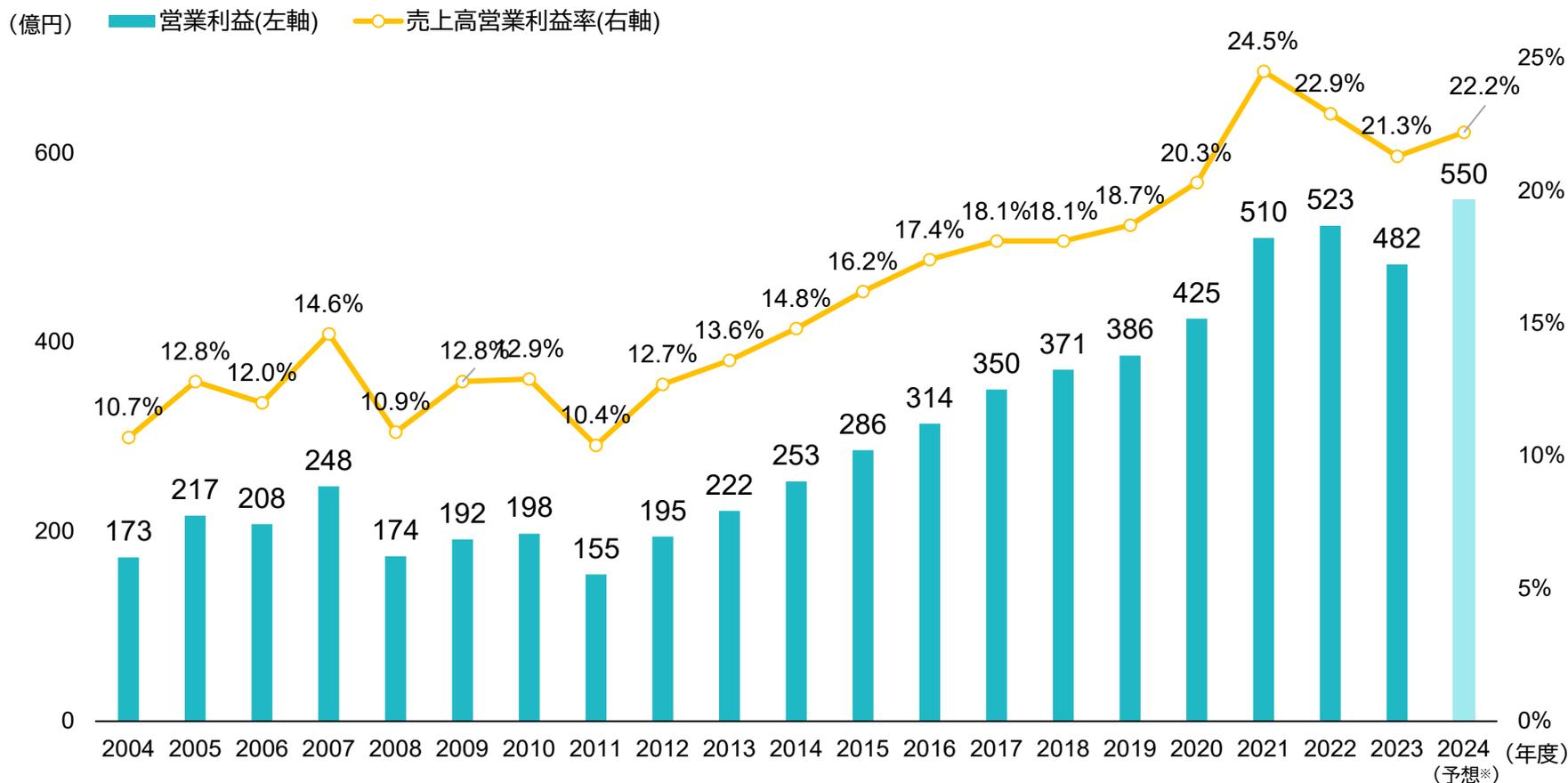
1. 普通株式/資本金：140百万株/18,942百万円（2024年3月現在） 東証プライム市場上場
2. 従業員数：連結3,137人 単体2,011人（2024年3月現在）
3. 主な事業内容：(1)機能性材料事業（ディスプレイ材料、半導体材料、無機コロイド等）
 (2)農業化学品事業（農薬、動物用医薬品等）
 (3)化学品事業（アンモニア・硫酸系基礎化学品、ファインケミカル等）
 (4)ヘルスケア事業（自社創薬、原薬・中間体製造/プロセス研究/GE原薬供給等）

- 2012年度以降、営業利益、EPS(一株当たり当期純利益)は2022年度まで一貫して上昇
- 2023年度は半導体市場の一時的な調整などにより減益となった
- 2024年度は回復基調となり、さらに中長期での成長トレンドは継続する見通し



※ 2025年2月発表

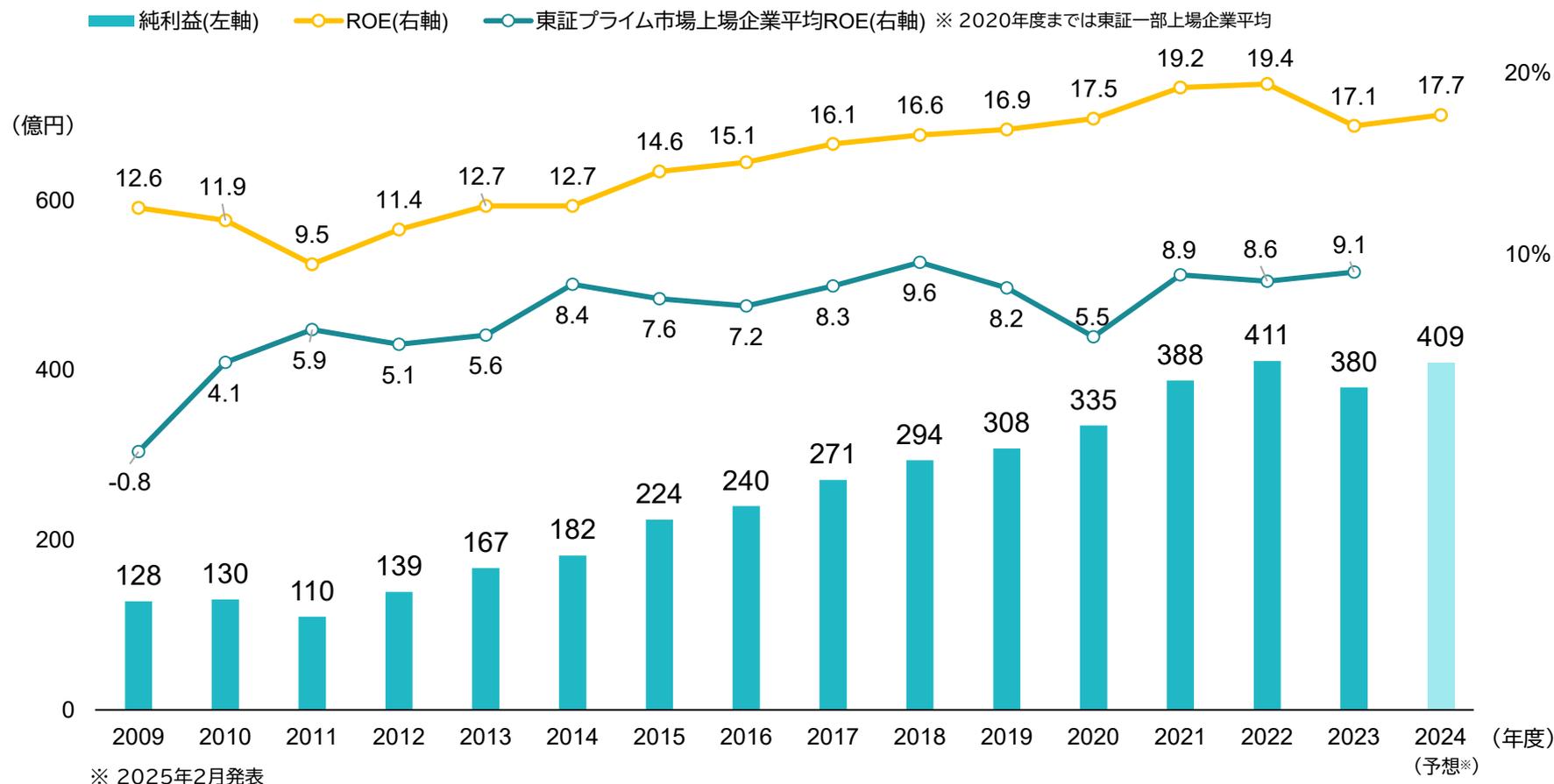
■ 景気変動の影響を受けやすい化学業界にあって、長期にわたり安定的かつ高い売上高営業利益率を維持（2003年度以降21年連続10%以上）



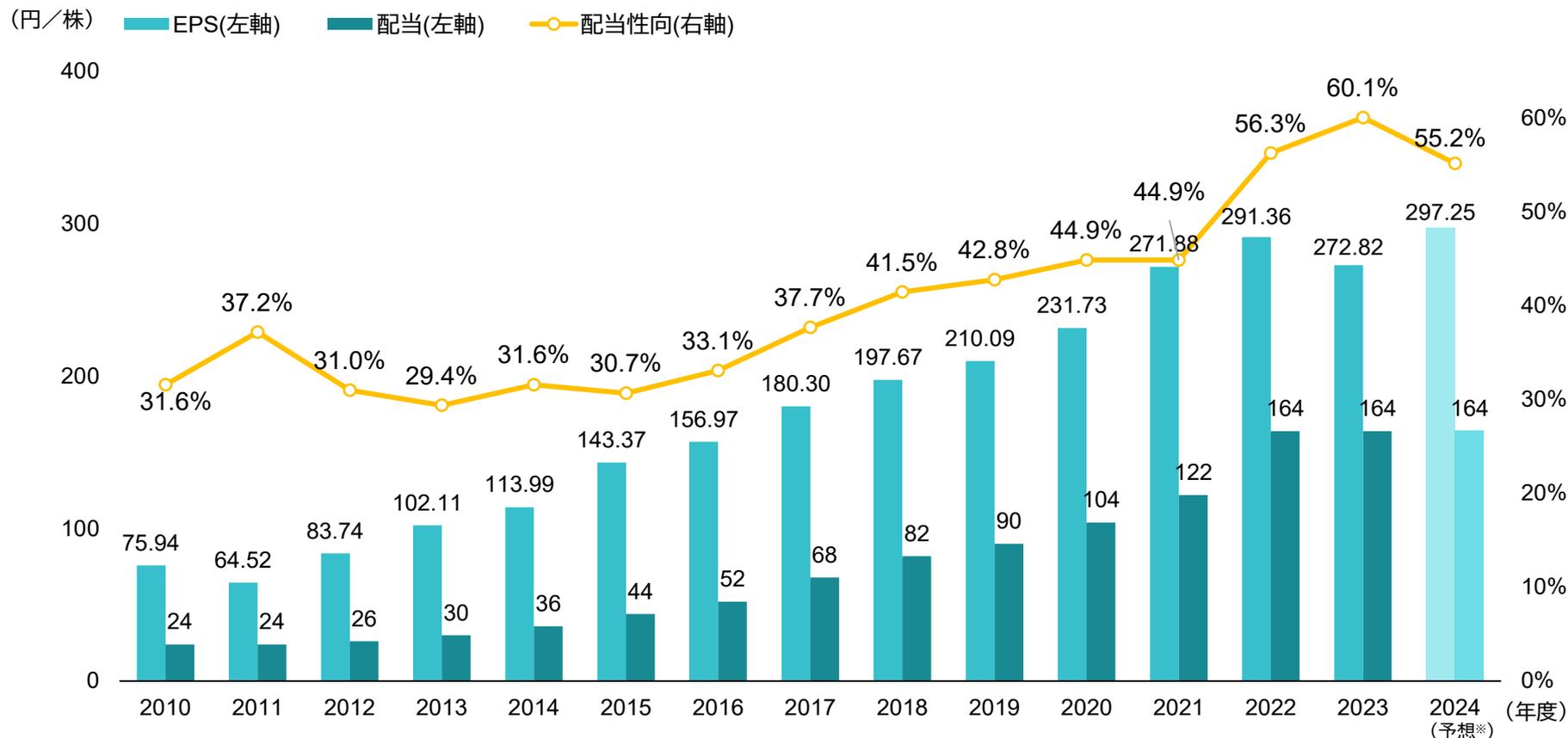
※ 2021年度実績:会計方針の変更影響を含む

※ 2025年2月発表

- ROEを従前より最重要の経営指標とし、高水準を維持
- 前中期経営計画(2019-2021年度)では16%以上維持を目標に掲げ、達成
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では18%以上維持が目標
- 2023年度実績は17.1%、2024年度予想は17.7%



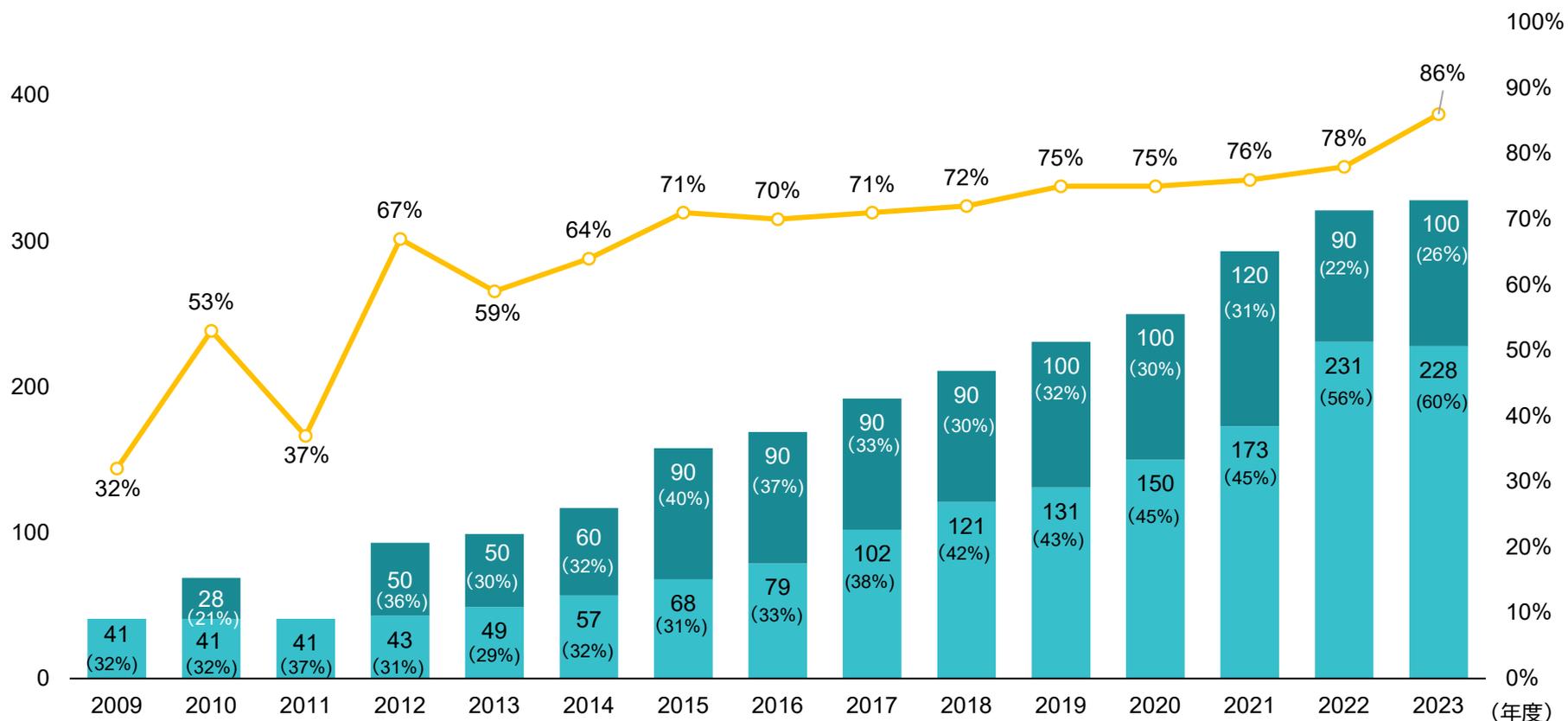
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では45%から55%に引き上げ、直接的な株主還元をより重視
- 2012年度以降2022年度まで11期連続増配



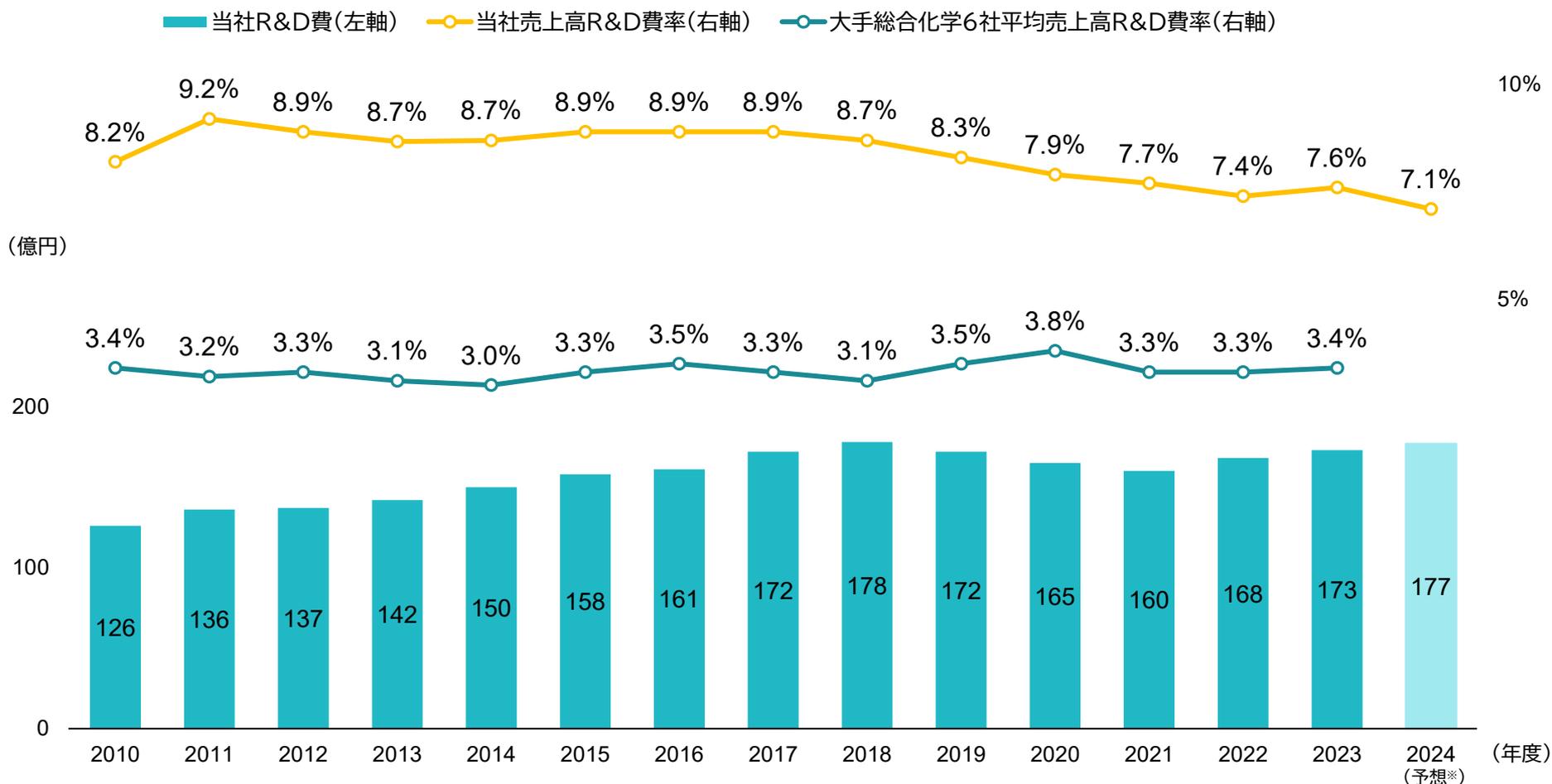
※ 2025年2月発表

- 配当と自己株式取得による株主還元の結果、総還元性向は70%台で推移
- 前中期経営計画(2019-2021年度)では、2019年度72.5%、2020年度以降75%が目標で、全て達成(2021年度実績は76%)
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では75%が目標(2023年度実績は86%)

(億円) ■ 配当総額(純利益に占める割合)(左軸) ■ 自己株式取得(純利益に占める割合)(左軸) ○ 総還元性向(右軸)



- 独自の革新的技術で社会の要請に応える未来創造企業
- R&Dを重視し、売上高R&D費率は7-9%と高水準を維持
- 2020-2021年度はコロナ禍で一時的にR&D費用が減少したものの、23年度以降は回復基調



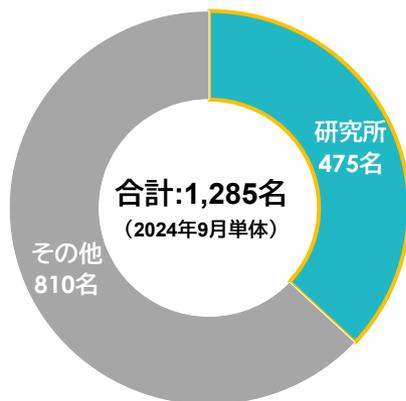
※ 2025年2月発表

- R&Dに多額の投資を行ってもなお、会社全体で高い営業利益率を確保
- 総合職の約40%は研究開発に関わる人材

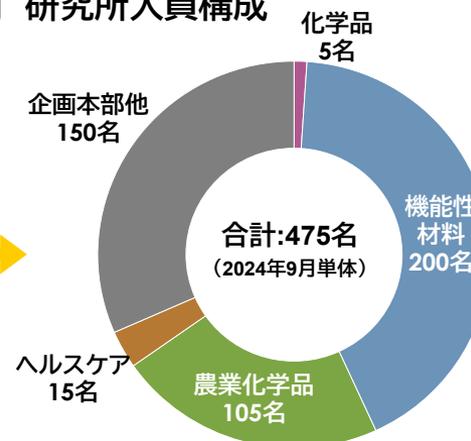
■ セグメント別研究開発費

セグメント	2023年度 実績				
	売上高 (億円)	営業利益 (億円)	売上高 営業利益率	R&D費 (億円)	売上高 R&D費率
化学品	356	0	0.1%	3	0.8%
機能性材料	846	225	26.6%	82	9.7%
農業化学品	821	234	28.5%	43	5.2%
ヘルスケア	63	28	44.4%	4	6.3%
企画本部他	-	-	-	41	-
合計(企画本部他含む)	2,267	482	21.3%	173	7.6%

■ 総合職 人員構成



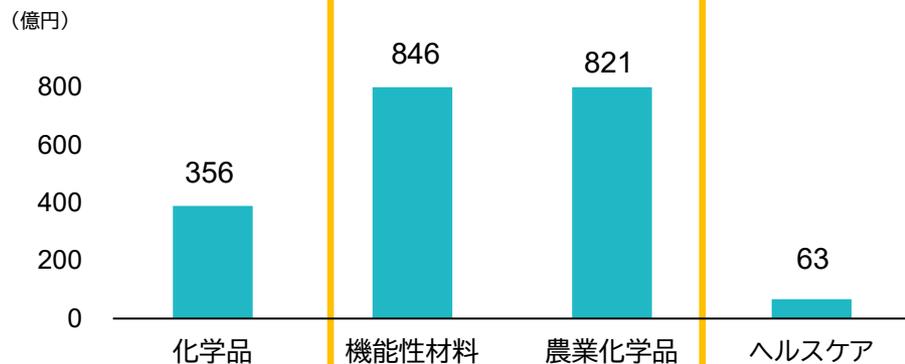
■ セグメント別 研究所人員構成



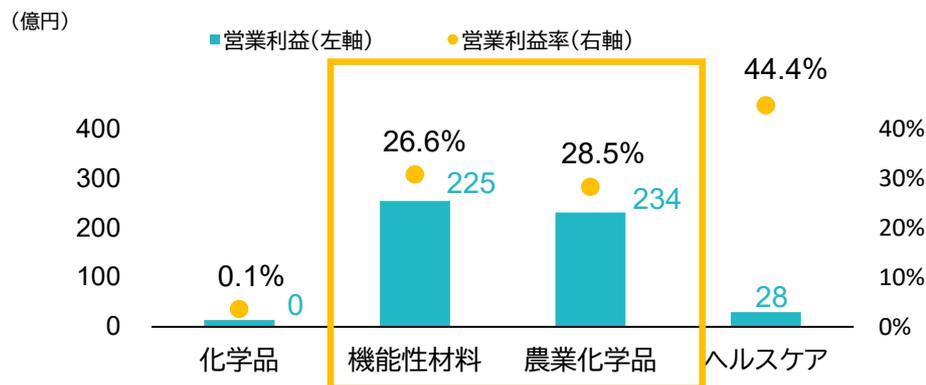
※ 表記している人数は概数

- 主要製品がニッチな市場で高いシェアを有し、成長を牽引
- 高収益、高成長、安定のバランス

2023年度 売上構成 ■ 本日説明:機能性材料、農業化学品



2023年度 営業利益構成



化学品

- アンモニア系製品、硫酸系製品、ファインケミカル
- 2016年度、アンモニア製造の原燃料を、ナフサから天然ガスへ転換

機能性材料

- 高収益源、高い市場シェア、新製品開発力
 - (A) サンエバー: 液晶ディスプレイ用配向膜
 - (B) 半導体反射防止コーティング材 (ARC®)
- 次世代ディスプレイ、半導体材料開発に注力

農業化学品

- 継続的な研究開発や他社からの買収剤に基づく安定した成長セグメント
- 動物用医薬品原薬フルララネル、新規殺虫剤グレーシアにより成長を見込む

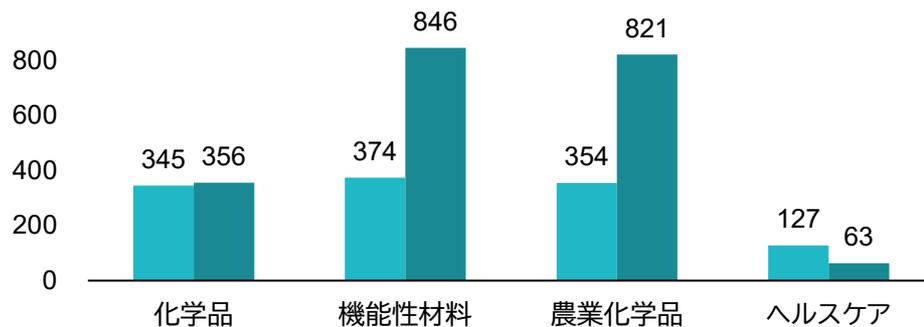
ヘルスケア

- 医療用医薬品の創薬・開発に特化し販売部門を有さない、ユニークなビジネスモデル
- ジェネリック、ペプチド受託に取り組む(ファインテック)

- 主要製品がニッチな市場で高いシェアを有し、成長を牽引
- 高収益、高成長、安定のバランス

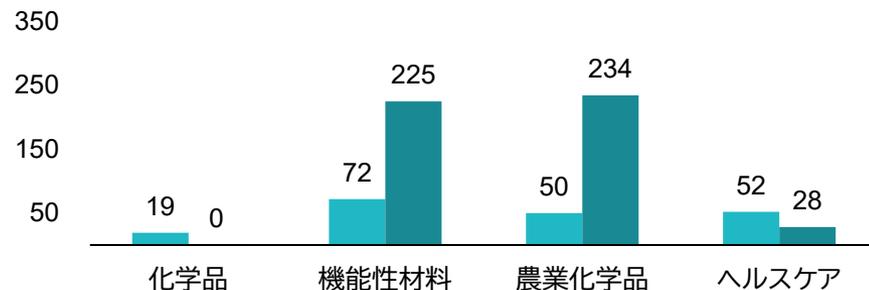
売上構成

(億円) ■ 2012 ■ 2023



営業利益構成※

(億円) ■ 2012 ■ 2023



※ 2022年4月に組織改定を実施。2012年度実績は旧セグメント区分。

化学品

- アンモニア系製品、硫酸系製品、ファインケミカル
- 2016年度、アンモニア製造の原燃料を、ナフサから天然ガスへ転換

機能性材料

- 高収益源、高い市場シェア、新製品開発力
- (A) サンエバー: 液晶ディスプレイ用配向膜
- (B) 半導体反射防止コーティング材 (ARC®)
- 次世代ディスプレイ、半導体材料開発に注力

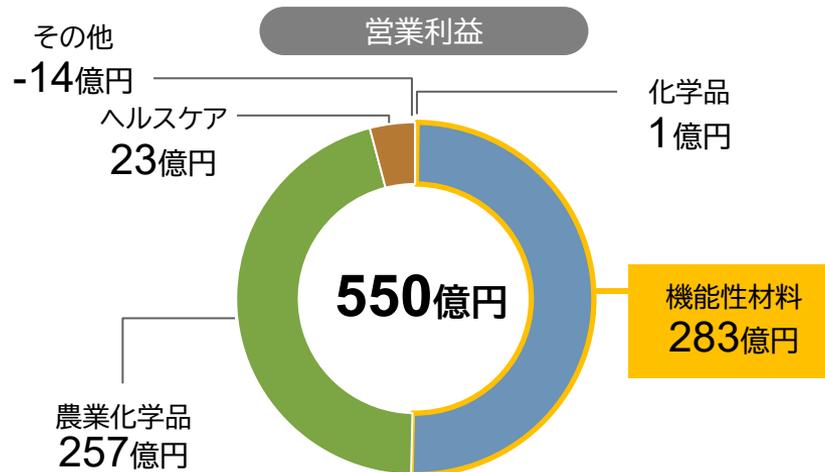
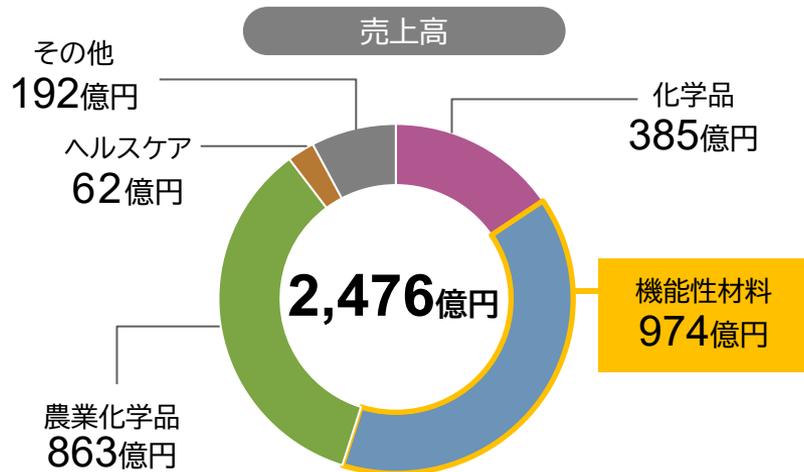
農業化学品

- 継続的な研究開発や他社からの買収剤に基づく安定した成長セグメント
- 動物用医薬品原薬フルララネル、新規殺虫剤グレーシアにより成長を見込む

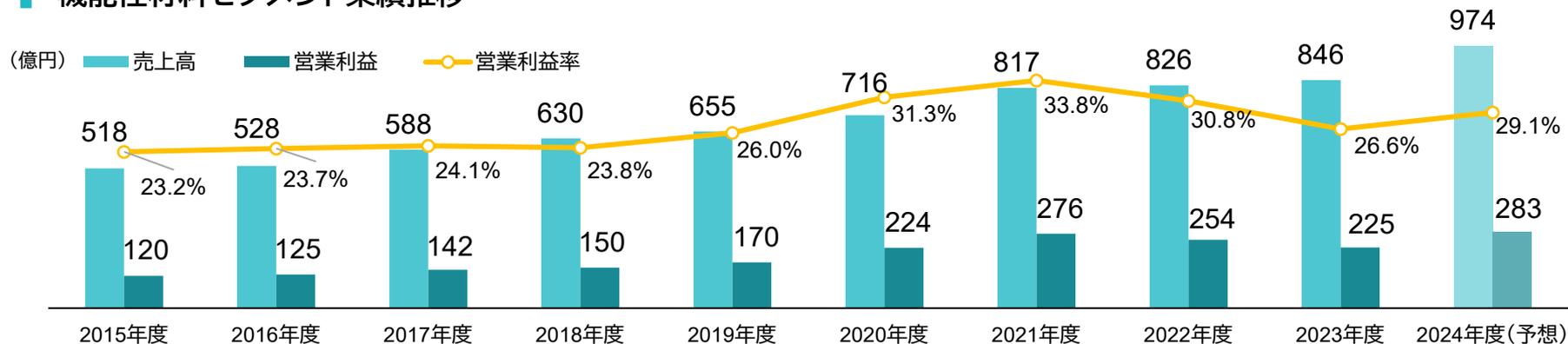
ヘルスケア

- 医療用医薬品の創薬・開発に特化し販売部門を有さない、ユニークなビジネスモデル
- ジェネリック、ペプチド受託に取り組む(ファインテック)

2024年度セグメント別業績予想※1



機能性材料セグメント業績推移※2



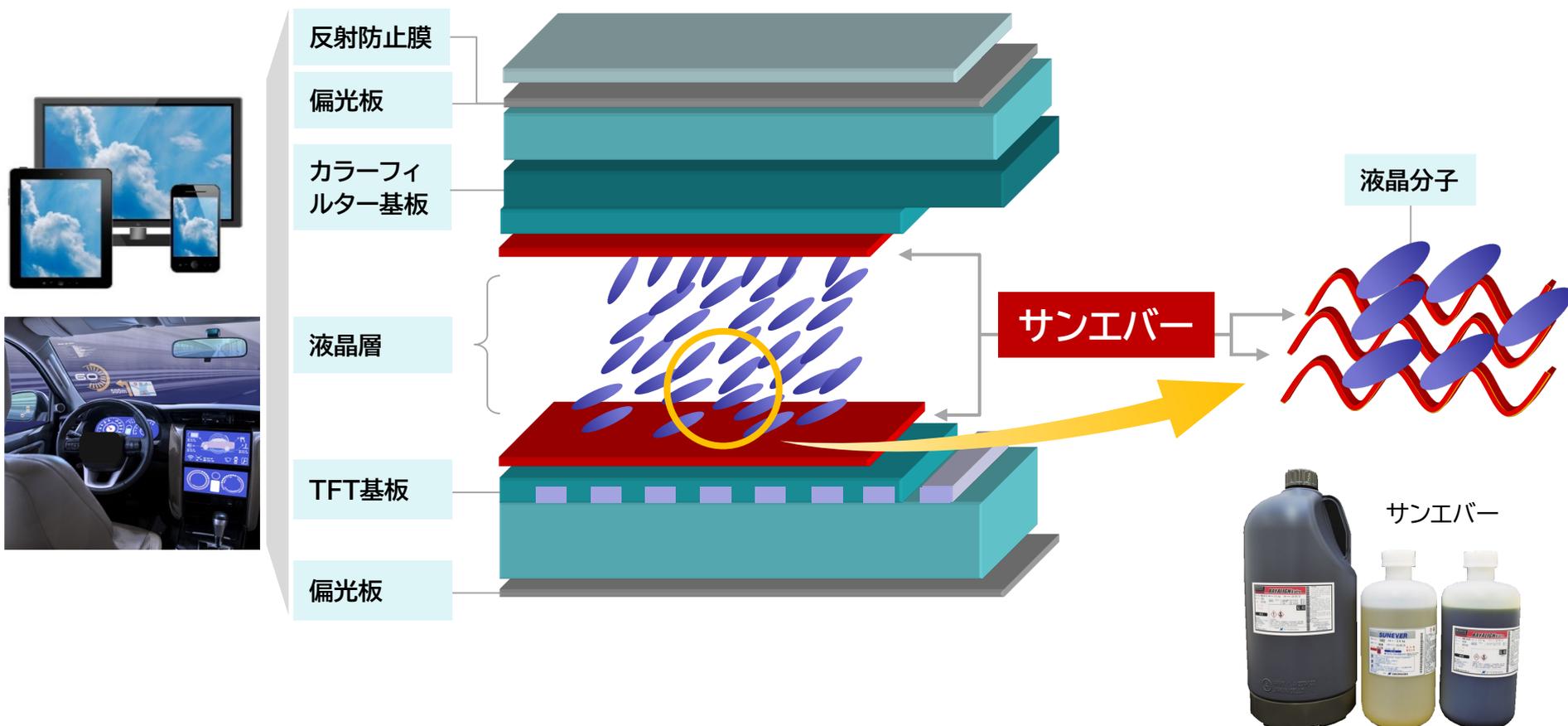
※1 予想は2025年2月発表

※2 2022年4月に組織改定を実施。2015～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み

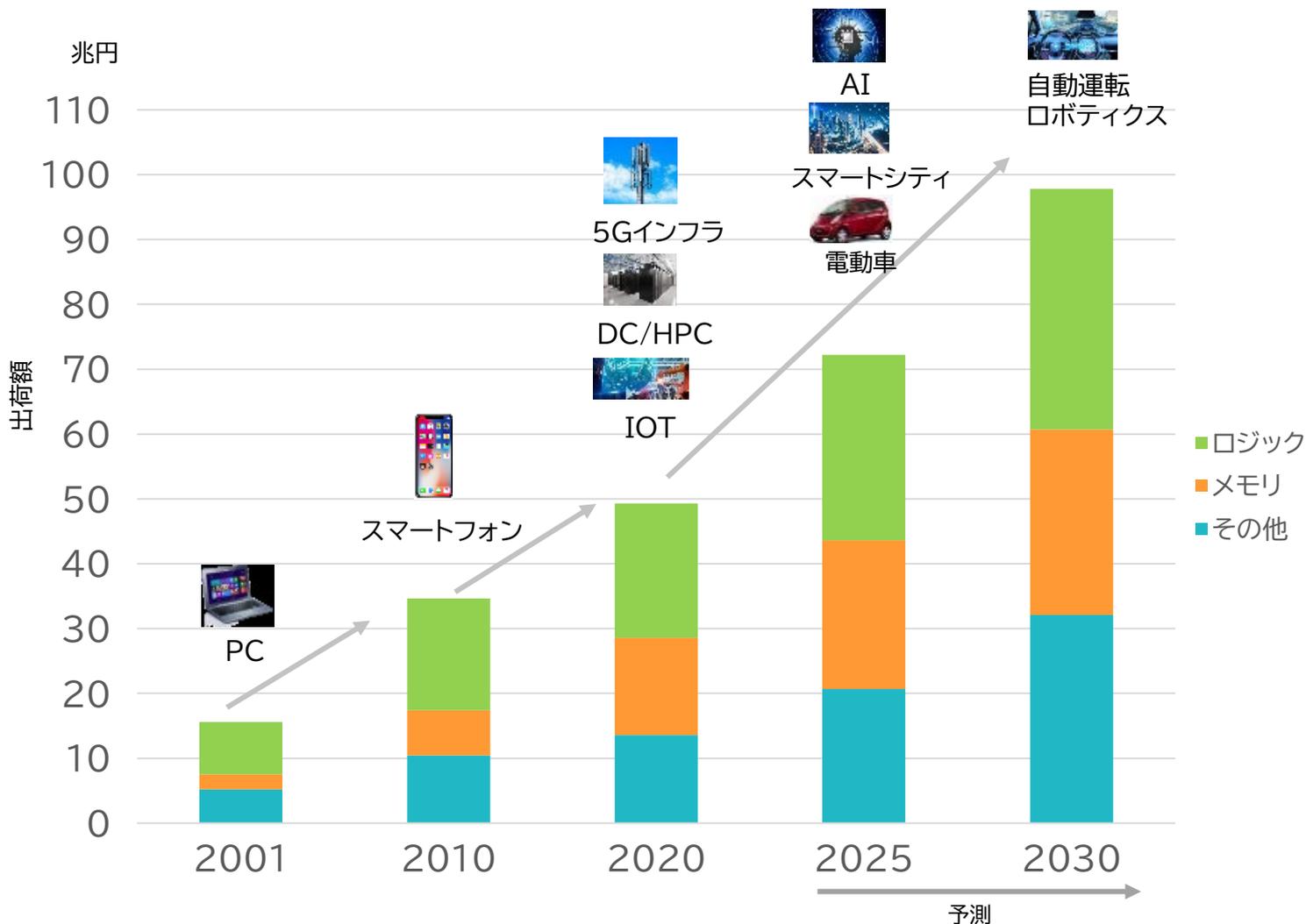
■ 液晶ディスプレイ用配向膜 サンエバー

- 液晶の向き、反応速度、コントラスト、解像度、焼き付きなどを制御する材料
- 当社とA社が世界第二大メーカー
- 当社は、新技術の光配向IPS市場において、スマホ・タブレット・ノートPC・モニター・車載向けで圧倒的シェア

■ 液晶パネル断面図



■ 世界の半導体市場



12インチウエハ 塗布装置
※材料科学研究所(富山)

- ロジック
- メモリ
- その他



反射防止コーティング材 (ARC®)

(出典) 経済産業省 2021年11月 第4回半導体・デジタル産業戦略検討会議資料

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/joho/conference/semicon_digital/0004/03.pdf

■ 半導体反射防止コーティング材(ARC[®] : Anti-Reflective Coating for semiconductor)

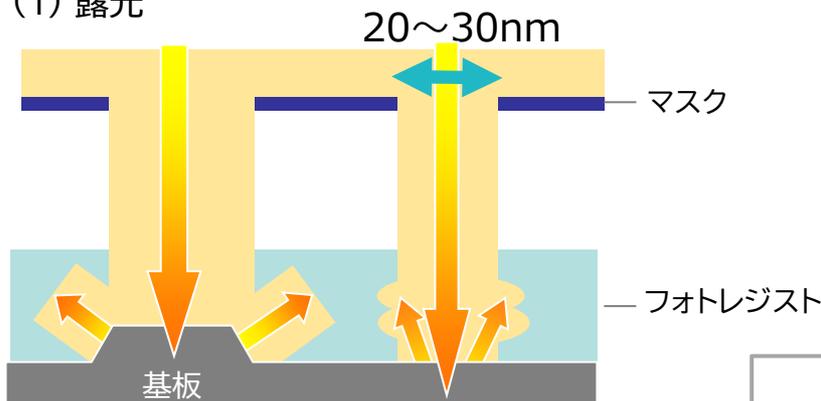
- 露光時に光の反射を防止することにより、微細なパターン形成を可能とするコーティング材料
- 当社は、アジアで圧倒的最大のシェアを有し、アジアの半導体産業の成長とともに当社事業も拡大

※ ARC[®]およびOptiStack[®]はBrewer Science, Inc. の登録商標

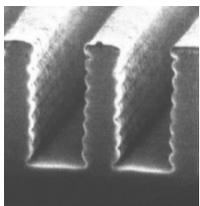


コーティング不使用

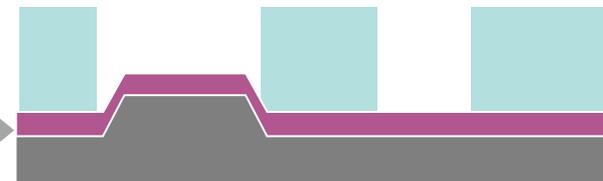
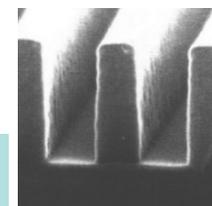
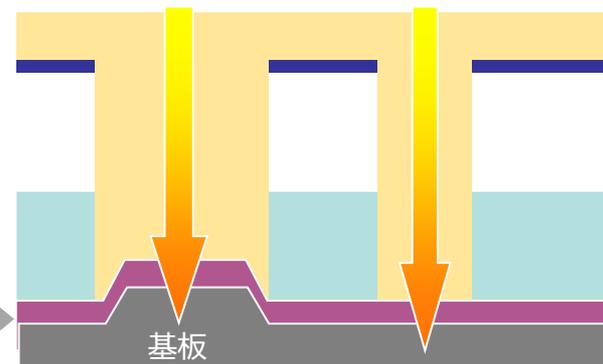
(1) 露光

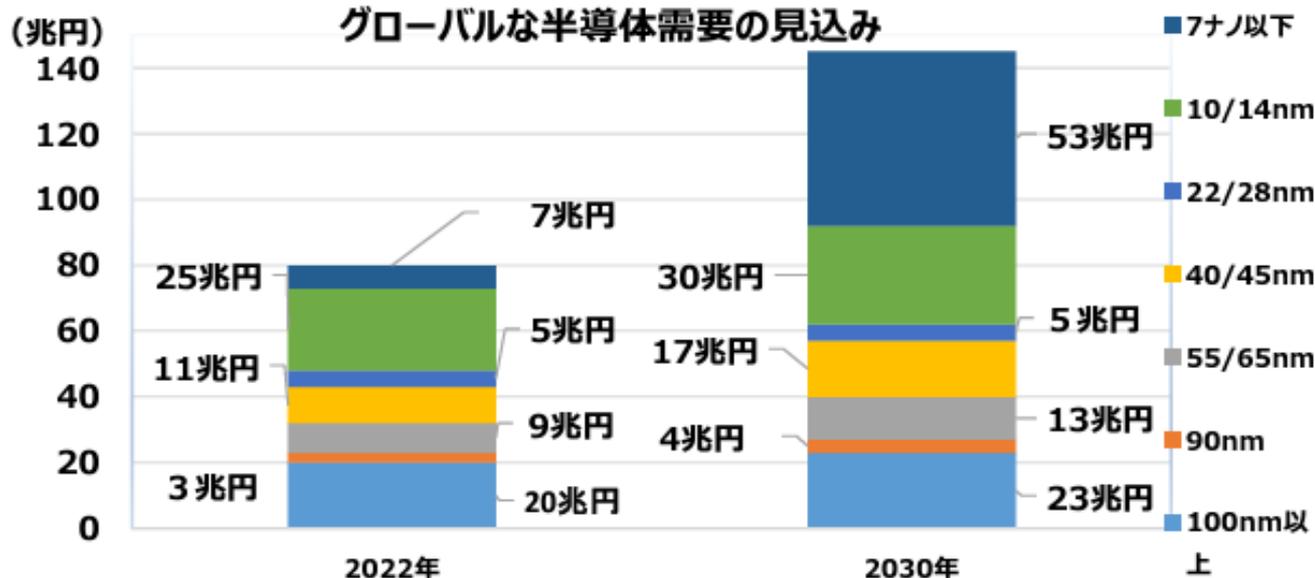


(2) 現像後



コーティング使用



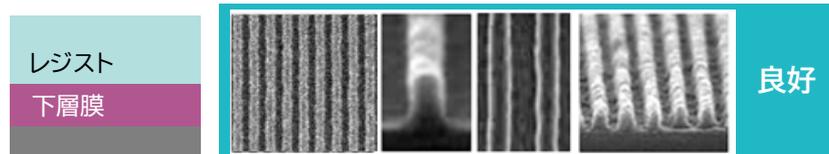
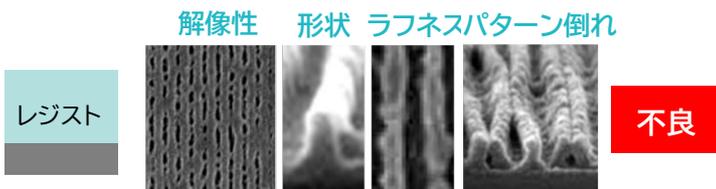


(注) OMDIAや専門家へのヒアリング等を元にしたMcKinsey&Companyによる分析

(出典) 経済産業省 2024年5月 第11回半導体・デジタル産業戦略検討会議資料

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/joho/conference/semicon_digital/0011/handeiisetr.pdf

■ EUV下層膜



下層膜はEUVリソグラフィーにおける必須材料へ
→ 量産展開中

NCK半導体工場

工場所在地

韓国忠清南道唐津市松山2産業団地

事業内容

半導体用材料の製造、販売

商業稼働

2024年度より稼働開始予定

投資額

90億円(概数)

償却方法

6年定率法(初年度33%を償却)



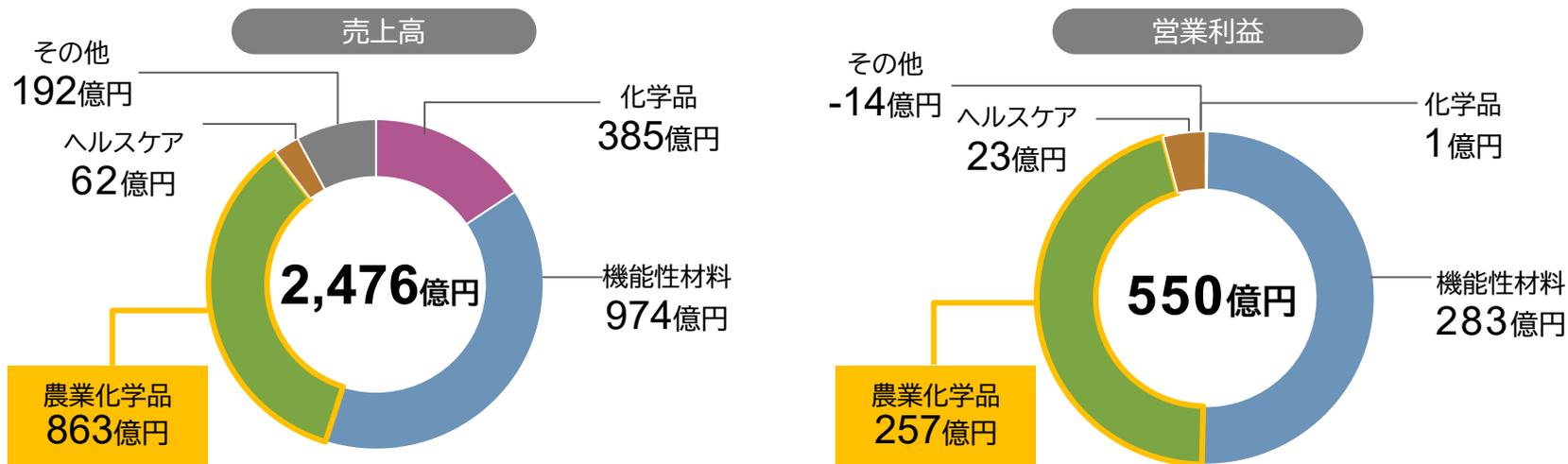
償却費負担は2024年度がピークで、
2025年度以降は減少していく見通し

- 高い収益率
- 新製品開発力（2023年度売上高研究開発費率9.7%）
- 液晶ディスプレイ市場の将来性、成長性
- 半導体事業の回復時期
- 半導体事業の業績ボラティリティ
- 中国リスク

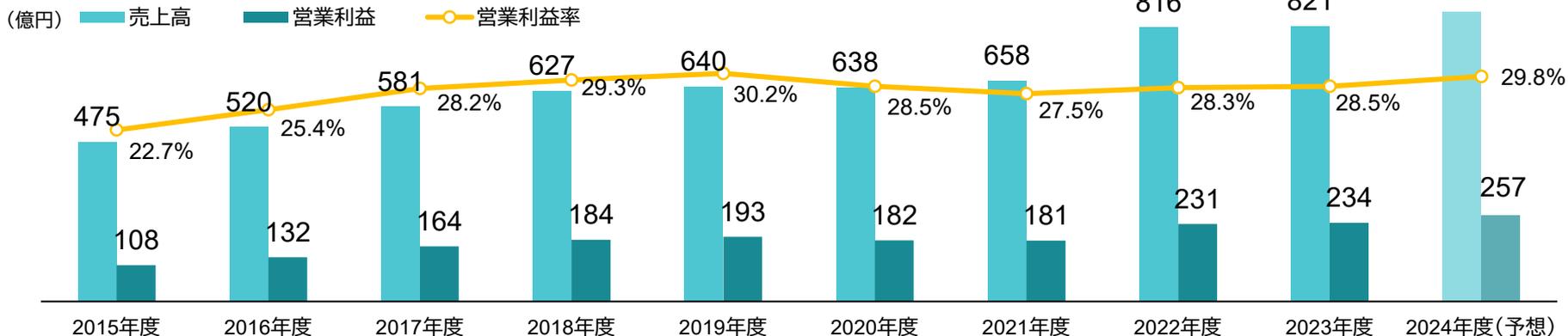
セグメント別研究開発費

セグメント	2023年度 実績				
	売上高 (億円)	営業利益 (億円)	売上高 営業利益率	R&D費 (億円)	売上高 R&D費率
化学品	356	0	0.1%	3	0.8%
機能性材料	846	225	26.6%	82	9.7%
農業化学品	821	234	28.5%	43	5.2%
ヘルスケア	63	28	44.4%	4	6.3%
企画本部他	-	-	-	41	-
合計(企画本部他含む)	2,267	482	21.3%	173	7.6%

2024年度セグメント別業績予想※1



農業化学品セグメント業績推移※2



※1 予想は2025年2月発表

※2 2022年4月に組織改定を実施。2015～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み

■ 農薬市場規模 上位5か国

国別農薬市場規模 (CY2021)

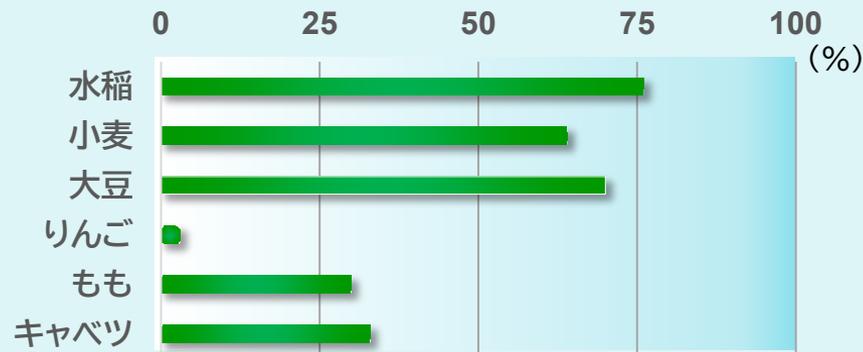
順位	国	百万\$
1	ブラジル	11,327
2	アメリカ	8,753
3	中国	7,521
4	日本	3,572
5	インド	3,104

日本は世界4位の農薬市場

■ 作物収量増加への貢献

世界の人口は2050年までに97億人に達する予測(国連推計)

■ 農薬を使用しなかった場合の収量^{※1}
 (農薬使用時の収量を100%とした場合の、農薬不使用時の収量)



■ 国内農薬メーカーの開発力の高さ

全世界における日本企業の新農薬開発割合^{※2}
 1980-2019年 新規剤上市
 : **33%** (122剤/368剤)

日本企業の規模は欧米大手企業と比べて小さいが、
 新規剤研究開発力は相対的に高い

■ 日本の地理的特徴

■ ヨーロッパと日本の比較



日本は南北に長く、多種多様な気候・栽培条件

※1 JCPA農薬工業会公表データを基に作成 (https://www.jcpa.or.jp/qa/a6_17.html)

※2 出典:Phillips McDougall, AgriService , 2019



- 新剤開発には、長期間、多額の研究開発費を要する
- 経済変動の影響が小さい安定的事業
- 自社開発新剤を柱に、剤の買収・導入による販売力強化
 - 2019年11月 殺菌剤クインテック買収
 - 2020年12月 殺菌剤ダイセン買収
(ともに米国コルテバ社より)
- 国内農薬販売額No.1(2022年10月～2023年9月)
- 現在は、アルテア(水稲用除草剤)、フルララネル(動物用医薬品原薬)、グレーシア(殺虫剤)などを成長エンジンとして高成長

上市年度	製品名	分類	開発経緯	備考
2002	ラウンドアップ	除草剤	買収	米国モンサント社より国内事業を買収、継続成長中
2008	ライメイ	殺菌剤	自社開発	
2008	スターマイト	殺虫剤	自社開発	
2009	パルサー(チフルザミド)	殺菌剤	買収	米国ダウ社より世界事業を買収
2010	ラウンドアップマックスロードAL	除草剤	自社開発	一般家庭向け希釈済みシャワータイプ除草剤。2016年AlⅡ、2017年AlⅢ上市
2011	アルテア	除草剤	自社開発	2011年韓国で上市、2012年日本で上市
2013	フルラナレル	動物用医薬品原薬	自社開発	米国MSD社※1向けにブラバクト®原薬として出荷開始
2014	ブラバクト®※2	ペット動物用医薬品	-	2014年4月欧州、6月米国、15年7月日本で上市
2017	トランスフォーム™/エクシード™ /ビレスコ™	殺虫剤	導入	米国ダウ社より導入
2018	グレーシア	殺虫剤	自社開発	広範囲の重要害虫に有効、ミツバチへの影響が少ない。 2018年韓国、2019年日本、2021年インド・インドネシアで上市以降、順次販売国拡大中(ピーク時売上高目標100億円)
2019	クインテック(キノキシフェン)	殺菌剤	買収	2019年11月米国コルテバ社より世界事業を買収。果樹野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的
2020	ダイセン(マンゼブ)	殺菌剤	買収	2020年12月米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収。果樹野菜用の保護除菌剤、耐雨性に優れる
2024	バルダー(ジメスルファゼット) (NC-653)	除草剤	自社開発	イネへの優れた安全性があり、抵抗性ホタルイや難防除雑草クログワイに高い効果を持つ(ピーク時売上目標35億円)
2027	未定(NC-520)	殺虫剤	共同開発	他社との共同開発の新規水稲用殺虫剤。ウンカ類への効果が高い(混合剤も含めピーク時売上目標25億円)
2027	未定(イプトリアゾピリド) (NC-656)	除草剤	自社開発	抵抗性イネ科雑草(ヒエ・アゼガヤ)に優れた効果を持つ。当社初の水稲用茎葉除草剤(ピーク時売上高目標100億円)

既存製品

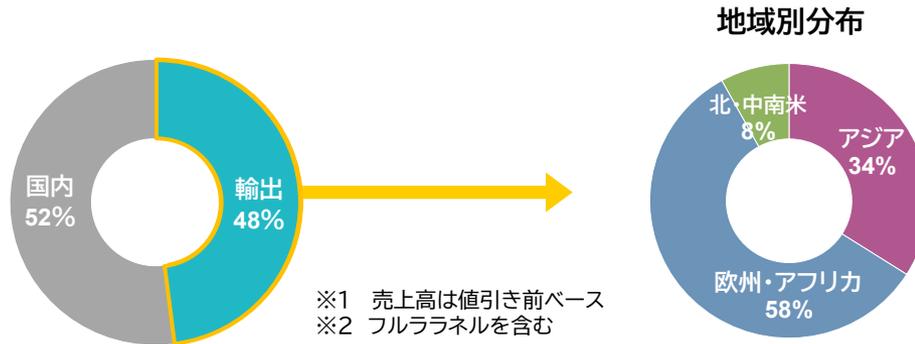
新製品・パイプライン

新製品群の
ピーク時売上高
目標合計
310億円

※1 MSD社:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称 ※2 ブラバクト®:MSD社の販売製品名

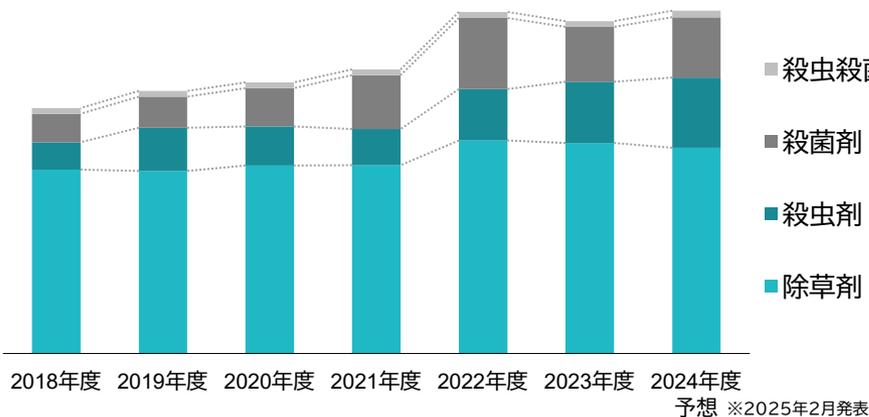
国内農薬販売 第1位(2022年10月~2023年9月)
 農薬売上高は国内向けの方が海外向けよりも大きい

■ 農業化学品セグメントの輸出比率(2023年度実績)※1・2

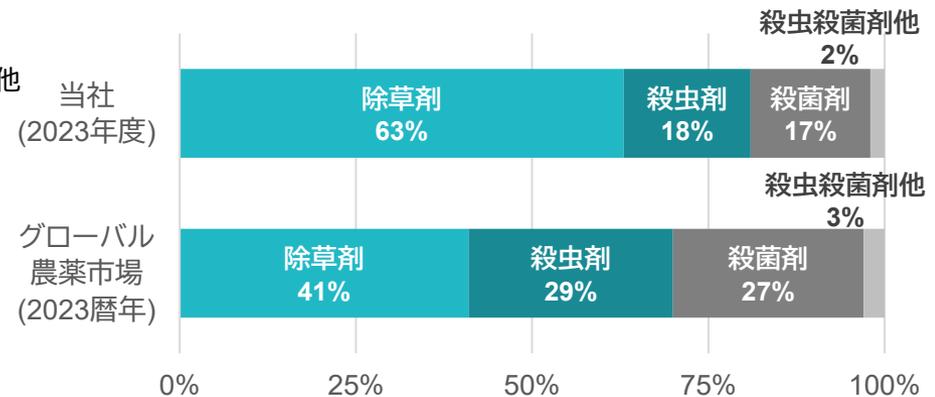


既存剤の拡販、自社開発剤の上市、剤の買収・導入により、製品ポートフォリオの拡充を進める

■ 当社の農薬売上高推移



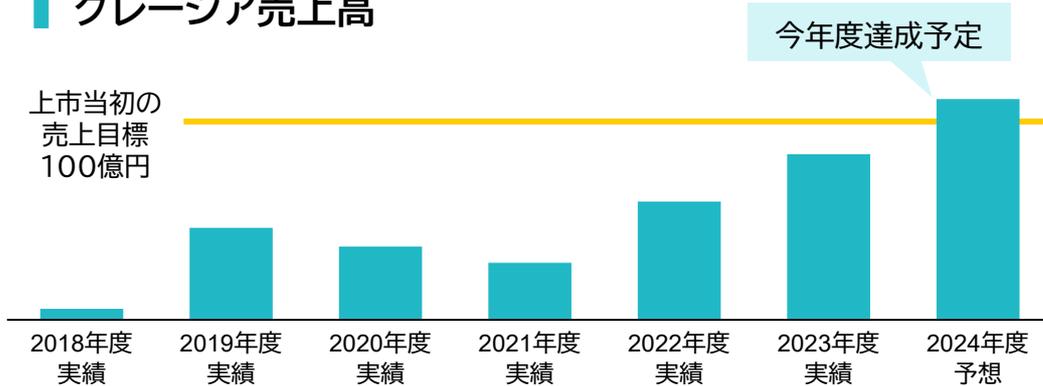
■ 当社の農薬売上高構成比



グレースシア

- 野菜、茶用殺虫剤
- 広範囲の害虫に有効で、既存剤に抵抗性を示す害虫にも効果を発揮
- 有効成分が直接害虫に作用し、速く効く
- ミツバチへの影響が少ない
- 日本、韓国、インドなどで販売中

グレースシア売上高



※2025年2月発表

速く効く。
あの害虫にも効く。
だから、
収穫に差がつく。^{*2}

殺虫率 0% A剤 殺虫率 20% グレースシア乳剤 殺虫率 90%

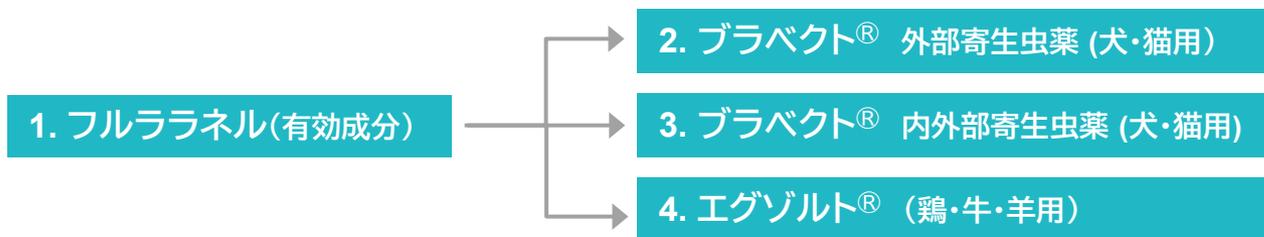
食害される前に駆除できる。

野菜・茶用殺虫剤 グレースシア[®] 乳剤

- 有効成分フルキサンメタゾロチン配合、抵抗性コナガにも有効
- 葉内に潜居が原因、葉裏の害虫も選別
- 幅広いゴキブリ目害虫に効果
- 殺虫効果は約2週間持続

日産化学株式会社

- 当社が発明した化合物「フルララネル」を有効成分とするブラベクト®シリーズ・エグゾルト®は現在100か国以上で販売中
- ブラベクト®最大の特徴は12週間にわたる効果持続性(既存製品は1か月程度)



1. フルララネル(Fluralaner)

- ブラベクト®・エグゾルト®の有効成分。当社がMSD社※1に供給
- これまでのペット用外部寄生虫薬とは異なる新たな作用機序を有している
- 化合物特許
 - 2025年3月に終了するが、多数の国で延長制度あり
 - UK、ドイツ、フランス等一部欧州諸国では、2029年2月まで延長済み、米国は2027年6月まで延長済み

2. ブラベクト® (BRAVECTO®) 外部寄生虫薬

- MSD社が開発したペット用外部寄生虫薬。犬・猫のノミ、マダニの主要種に対し即効性に優れる
- 通常1か月毎に投薬する既存製品より殺虫効果の持続性が長く、12週間※2にわたって持続する
- 犬向けチュアブルタブレット(経口投与製剤)
 - 2014年4月欧州、以降米国、日本等上市
 - 2020年7月1か月剤(子犬向け)米国上市
- 犬、猫向けスポットオン製品(経皮投与製剤)
 - 2016年7月欧州、以降米国、日本等上市
- 犬向け注射剤 (BRAVECTO® Quantum)
 - 12か月※3の効果持続性
 - 2024年6月豪州、以降欧州等上市

3. ブラベクト® (BRAVECTO®) 内外部寄生虫薬

- BRAVECTO® Plus
 - 猫向けスポットオン合剤
 - 2018年7月欧州、以降米国、日本等上市
- BRAVECTO® TriUNO
 - 犬向けチュアブルタブレット(3種合剤)
 - 1か月の効果持続性
 - 2024年10月欧州、中南米にて承認

4. エグゾルト® (EXZOLT®)

- 鶏向けワクモ駆除剤(飲水投与)
 - 2017年欧州、以降韓国、中東、日本等上市
- 牛向け 2022年ブラジル、以降メキシコ上市
- 羊向け 2023年豪州、NZ上市

※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

※2 クリイロコイタマダニは8週間

※3 クリイロコイタマダニは11か月

Nissan Bharat Rasayan Private Limited(NBR)

工場所在地

インドグジャラート(Gujarat)州サイカ(Saykha)に新設
(土地は同州産業開発公社(GIDC)より賃借)

事業内容

当社の農薬(グレーシア、ライメイ等)原体を製造し、当社へ販売

商業稼働

2022年度4Qより稼働開始済み

投資額

60億円(概数)

償却方法

10年定額法



2024年度業績予想を上方修正(通期営業利益 550億円)

1-3Q実績および4Q見通しを踏まえ、通期予想を策定

主要セグメント※1の通期予想は2024年11月発表から据え置き、調整額予想を上方修正

※1 化学品、機能性材料、農業化学品、ヘルスケア

通期	前年同期比
----	-------

- 売上高は209億円増収(+9%)
- 営業利益は68億円増益(+14%)、純利益は29億円増益(+8%)
- 営業利益は過去最高益を更新
- ROE予想は17.7%

通期	業績予想比 (2024年11月発表予想との比較)
----	-----------------------------

- 売上高は26億円上ぶれ
- 営業利益は20億円上ぶれ、純利益は15億円上ぶれ

足元の状況

今回発表した4Q予想値に対する、足元での主要セグメントの4Q売上見込みは以下の通り

- 半導体や無機、海外農薬は上ぶれる可能性あり
- 動物薬やファインテックは2025年度への一部出荷期ずれにより下ぶれる可能性あり

株主還元予想

- 年間配当 164円 (2024年11月発表から変更なし)
- 自己株式取得 100億円 完了(期間:2024年5月~12月)

配当	通期164円(中間70円、期末94円) 配当性向55.2% 前年比:同額、2024年11月発表比:変更なし
自己株式取得	100億円 完了(取得期間:2024年5月~12月、2.0百万株) 2023年度実績:100億円、1.7百万株
自己株式消却	1.0百万株 消却済(2024年9月)
総還元性向予想	79.4%
中期経営計画目標	総還元性向75%、配当性向55%

中期経営計画 Vista2027(2022-2027年度)

セグメント別 売上高・営業利益

(億円)

		2021年度 実績※1	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 予想※2	2024年度 中計	2027年度 中計
化学品	売上高	376	390	356	385	376	401
	営業利益	38	14	0	1	35	39
機能性材料	売上高	817	826	846	974	1,029	1,172
	営業利益	276	254	225	283	321	380
農業化学品	売上高	658	816	821	863	778	823
	営業利益	181	231	234	257	217	210
ヘルスケア	売上高	66	67	63	62	72	115
	営業利益	28	30	28	23	21	43
卸売・その他・ 調整額	売上高	163	182	181	192	295	339
	営業利益	-13	-6	-5	-14	-9	-2
企画本部※3	売上高	0	0	0	2	13	44
	営業利益	-49	-55	-53	-53	-47	-47
合計	売上高	2,080	2,281	2,267	2,476	2,550	2,850
	営業利益	510	523	482	550	585	670
為替レート(円/ドル)		112	136	145	152	110	
(経営指標)							
売上高営業利益率		24.5%	22.9%	21.3%	22.2%	20%以上	
ROE		19.2%	19.4%	17.1%	17.7%	18%以上	
配当性向		44.9%	56.3%	60.1%	55.2%	55%維持	
総還元性向		75.6%	78.0%	86.2%	79.4%	75%維持	

※1 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p60参照) ※2 2025年2月発表 ※3 企画本部は卸売・その他・調整額の内数

2027年の企業像実現のため、当社が取組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定取組みを推進することで社会とともに持続的な成長を目指す

▶▶▶1

人びとの暮らしに役立つ
新たな価値の提供

▶ 日産化学サステナブル
アジェンダ※1

社会課題解決に貢献する製品・
サービスの全売上に占める割合
55%以上維持

※1 社会課題解決に貢献する製品・サービスの提供により、
「地球と人の未来のためにできること」を追求する計画

▶▶▶2

自社事業基盤の強化

▶ 人材の確保・育成
人材育成に関する社員意識調査
肯定回答率
65%以上

▶ ダイバーシティ推進
研究所女性総合職比率 **18%以上**

▶▶▶3

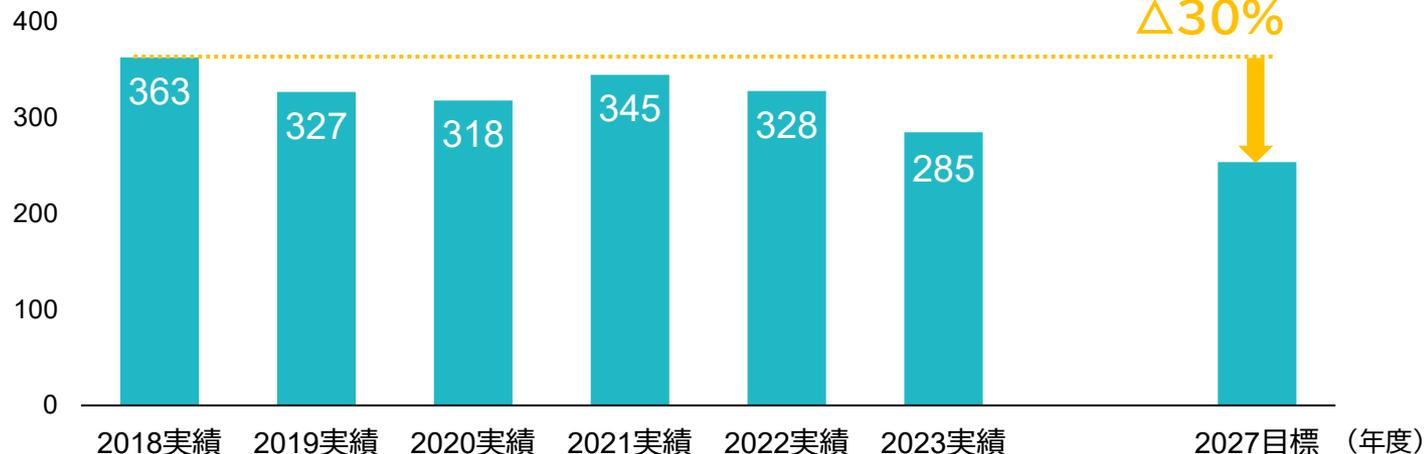
レスポンシブル・ケア活動の
継続的強化

▶ GHG排出削減目標
2018年度比 **30%以上削減**

当社グループの最重要課題

コーポレート・ガバナンス、リスクマネジメント、コンプライアンスの強化

- 2050年のカーボンニュートラル実現に向け、従来の取り組みに加え、生産技術の改善や再生エネルギー導入などに注力する
- GHG排出量2027年度目標:2018年度比30%削減(SCOPE1+2)

(千トン-CO₂e)

■ 他社とのGHG排出量の比較

年度	2011	2018	2019	2020	2021	2022	2023
日産化学(単体ベース)	448	363	327	318	345	328	285
大手総合化学4社平均 (連結ベース)	-	-	9,275	8,928	9,226	8,390	7,863

中期経営計画 Vista2027 (2022-2027年度)における取り組み

- 硝酸プラントからのN₂O排出ゼロ
(予定投資額 500百万円 変動費50百万円/年)
- メラミン製造中止
- 小野田工場燃料転換
- ICP本格導入によるGHG排出削減推進
- フロン機器の削減
- 省エネ機器への更新

E

(環境)

S

(社会)

- 2021年4月 ダイバーシティステートメントおよびダイバーシティビジョンを設定
- 2022年5月 2050年にカーボンニュートラルへ温室効果ガス(GHG)排出削減長期目標を設定(詳細はp45参照)
- 2022年6月 メラミン停止によるGHG削減(26千トン、2018年度実績の約7%に相当)
- 2022年6月 気候変動対策委員会設置
- 2024年9月 「[統合レポート2024](#)」を発行

G

(ガバナンス)

- 2019年4月 指名・報酬諮問委員会設置(取締役会の任意の諮問機関)
- 2019年6月 取締役等を対象に業績連動型株式報酬制度導入(株式給付信託)
- 2022年6月 役員報酬体系にESG指標を組入れ(基本報酬65%、業績報酬28%、株式報酬7%
業績報酬28%のうち、利益連動部分90%、ESG連動部分10%)
- 2024年6月 女性取締役(社外)2名選任(再任)(取締役は計10名、うち社外4名)
- 2024年12月 「[コーポレートガバナンス報告書](#)」を更新

Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index

- 2024年12月
7年連続で構成銘柄に選定

Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**
Powered by the S&P Global CSA

S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

- 2024年9月
6年連続で構成銘柄に選定



FTSE

- 2024年6月 FTSE4Good Index Series、FTSE Blossom Japan Indexの構成銘柄に5年連続選定
- 2024年6月 FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの構成銘柄に3年連続選定

※ FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はここに日産化学株式会社が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。



FTSE4Good

FTSE Blossom
JapanFTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

MSCI

- 2023年6月 MSCI ESG格付け BBBからAへ格上げ
- 2024年1月 MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数
構成銘柄に選定

※ MSCI指数への日産化学株式会社の組み入れ、および本ページにおけるMSCIロゴ、商標、サービスマーク、または指数名称の使用は、MSCIまたはその関係会社による日産化学株式会社の後援、保証、または販売促進ではありません。MSCI指数は、MSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCI指数の名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

**2024 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数**

健康経営優良法人 -ホワイト500-

- 2024年3月 8年連続認定

2024
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500

Morningstar

- 2024年12月 Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index 2年連続で構成銘柄に選定

日経統合報告書アワード

- 2024年2月 「優秀賞」 に選定



「子育てサポート企業」くるみん

- 2023年1月 2回連続認定



外部イニシアチブへの参画



証券アナリスト協会 「2024年度ディスクロージャー優良企業」

- 化学・繊維部門 第2位(2020年度第1位、2021年度第3位、2022年度第2位、2023年度第2位)

JPX Prime 150指数の構成銘柄に2年連続選定

- 株式会社JPX総研が開発した新たなインデックス指数。東証プライム市場構成銘柄の時価総額上位500社の中から「価値創造が推定される我が国を代表する企業」という位置づけで、価値創造を測る2つの指標に基づいて選定。

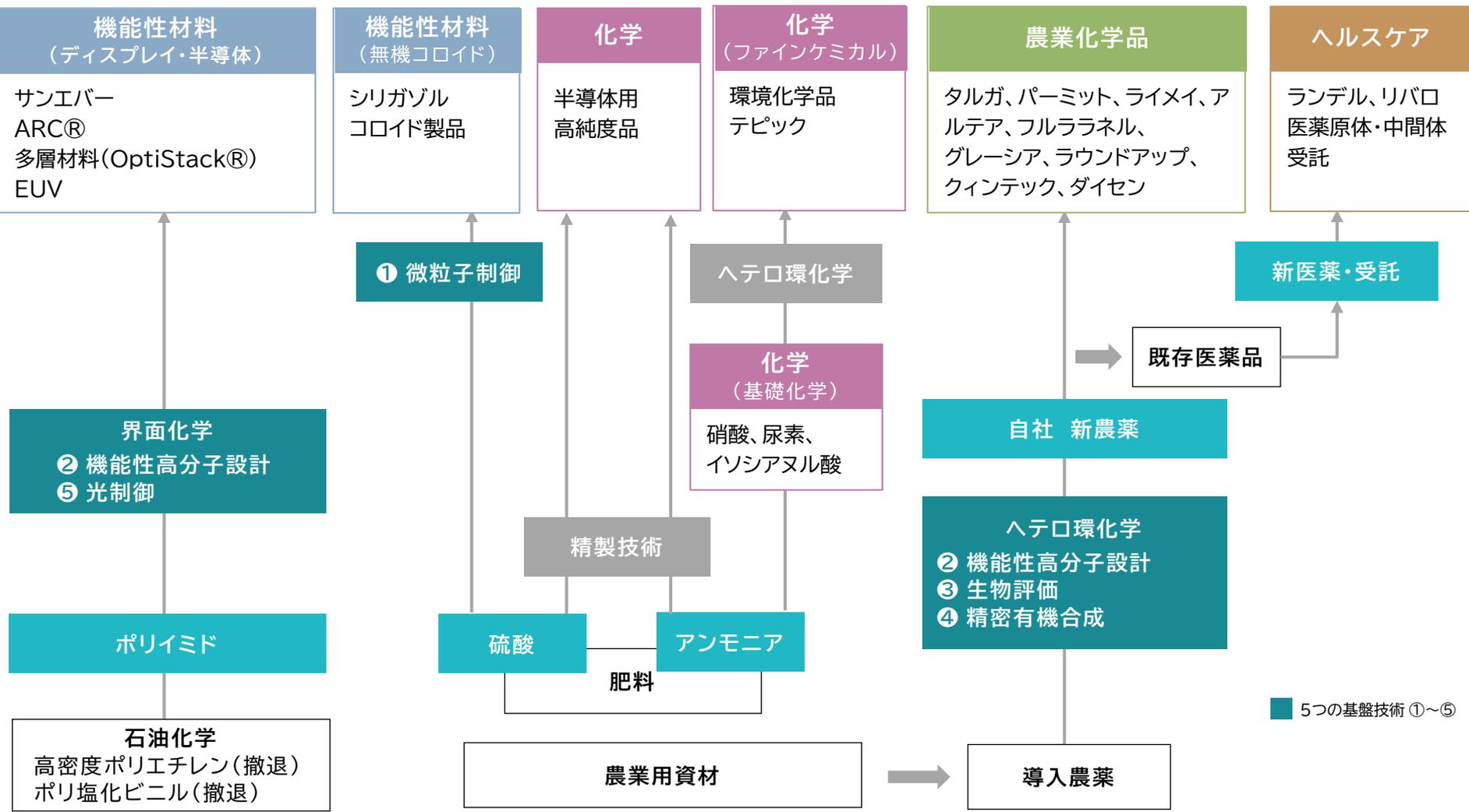
※2つの指標は(1)ROE(株主資本利益率)と株主資本コストとの差である「エクイティ・スプレッド」、(2)株価による市場評価である「PBR」
当社は、「エクイティ・スプレッド」基準により選定

日本IR協議会 「IR優良企業特別賞」

- 日本IR協議会会員企業のうち応募企業355社の中から、日本IR協議会がIRの趣旨を深く理解し、積極的に取り組み、市場関係者の高い支持を得るなど、優れた成果を挙げた企業を選び、表彰。

IR/サステナビリティホームページ

- | | |
|--|----------------|
| ■ 日興IR「2024年度ホームページ充実度ランキング」 | 最優秀サイト受賞(7年連続) |
| ■ 大和IR「2024年インターネットIR表彰」 | 優秀賞受賞(2年連続) |
| 同サステナビリティ部門 | 優秀賞受賞(4年連続) |
| ■ ブロードバンドセキュリティ「Gomez IRサイトランキング2024」 | 銀賞受賞(5回目) |
| ■ ブロードバンドセキュリティ「Gomez ESGサイトランキング2024」 | 優秀企業受賞(5年連続) |



5つの基盤技術 ①~⑤

既存のコア技術に加え、新技術を獲得し、3つの成長事業に関する新たな領域に進出
コア技術の深化と融合により各事業領域の成長を加速させ、社会課題解決に貢献する

社会課題
の解決

地球環境の保全
食料問題の解決

気候変動の緩和
スマート社会の実現

健康問題への対応
生活の質の向上



事業

新たな領域
への進出

① 情報通信

- 半導体材料
- ディスプレイ材料
- 光機能性材料

● センシングシステム
(IoTセンサー材料)

- メタマテリアル材料

② ライフサイエンス

- 農薬
- 動物薬
- 生体材料
- 医薬品
(低分子、核酸、ペプチド)

● センシングシステム
(生体模倣センサー)

● マイクロバイオーム
(農業・医療) (微生物資材)

- バイオスティミュラント

③ 環境エネルギー

- 2次・燃料電池材料

- 次世代太陽電池材料
- CCUS材料

- CO₂還元システム

④ 素材・サービス

- 工業薬品
- コロイダルシリカ
- 関係会社

成長事業

基盤事業

コア技術

既存技術

精密有機合成

機能性高分子設計

微粒子制御

生物評価

光制御

新技術

微生物制御

情報科学

- 22年度まで、営業利益・経常利益は9年連続、純利益は10年連続で、過去最高益を更新
- 23年度は、半導体市場の低調などにより一時的に減益となるも、24年度では、売上高及び営業利益は過去最高を更新する見通し

(億円)

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (予想)
売上高	1,637	1,712	1,769	1,803	1,934	2,049	2,068	2,091	2,080	2,281	2,267	2,476
営業利益	222	253	286	314	350	371	386	425	510	523	482	550
経常利益	237	264	295	317	362	391	400	439	537	558	516	559
純利益	167	182	224	240	271	294	308	335	388	411	380	409
売上高営業利益率	13.6%	14.8%	16.2%	17.4%	18.1%	18.1%	18.7%	20.3%	24.5%	22.9%	21.3%	22.2%
ROE	12.7%	12.7%	14.6%	15.1%	16.1%	16.6%	16.9%	17.5%	19.2%	19.4%	17.1%	17.7%
EPS(円/株)	102.11	113.99	143.37	156.97	180.30	197.67	210.09	231.73	271.88	291.36	272.82	297.25
配当(円/株)	30	36	44	52	68	82	90	104	122	164	164	164
配当性向	29.4%	31.6%	30.7%	33.1%	37.7%	41.5%	42.8%	44.9%	44.9%	56.3%	60.1%	55.2%
総資産	2,080	2,239	2,282	2,317	2,460	2,470	2,495	2,655	2,797	2,987	3,235	-
純資産	1,378	1,513	1,569	1,637	1,764	1,821	1,855	2,006	2,080	2,215	2,309	-
自己資本比率	65.7%	66.9%	68.1%	69.9%	71.0%	73.0%	73.7%	74.9%	73.6%	73.1%	70.3%	-
R&D	142	150	158	161	172	178	172	165	160	168	173	177
同 売上高比率	8.7%	8.7%	8.9%	8.9%	8.9%	8.7%	8.3%	7.9%	7.7%	7.4%	7.6%	7.1%

1. 方針の変更 「収益認識に関する会計基準(企業会計基準29号)」を適用
2. 適用時期 2021年4月1日より
3. 方針変更に伴うPL、BSへの主な影響

2021年度のPLへの影響額(前年同期比) (億円)

	2021実績						
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高の増減※1	-35	-74	-109	-17	-103	-120	-229
営業利益の増減※2	+12	-21	-9	+40	-32	+8	-1

※1 (1)代理人取引、(2)売上高を基礎としたロイヤリティ収入、(3)変動対価、の影響合計

※2 (2)売上高を基礎としたロイヤリティ収入、(3)変動対価、の影響合計

(1) 代理人取引

主たる適用セグメント	化学品、農業化学品、卸売
適用後	売上総利益額見合の売上高のみ表示(適用前は売上高、売上原価を総額で表示)
2021年度PLへの影響額	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上高、売上原価がそれぞれ228億円減少、営業利益には影響せず ■ 各セグメントの売上高には影響させず、「調整額」で控除

(2) 売上高を基礎としたロイヤリティ収入

主たる適用セグメント	農業化学品(動物薬ロイヤリティ収入)
適用前(2020年度まで)	MSD社※ 1-6月売上高見合を8月、7-12月売上高見合を翌年2月に計上
適用後(2021年度より)	MSD社※ 1-3月売上高見合を5月、4-6月売上高見合を8月、7-9月売上高見合を11月、10-12月売上高見合を翌年2月に計上

※ MSD社:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

(3) 変動対価(販売時点では変動する可能性のある売上値引など)

主たる適用セグメント	農業化学品
適用後	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上期間に応じて見積もり計上(適用前は金額確定時に計上) ■ 適用前に比べ、値引額は1Q増加(マイナス影響)、2Q減少、上期増加、下期減少、年間ほぼなし、の傾向
2021年度BSへの影響額	2021年度期首利益剰余金(BS項目)が2020年度の遡及修正で15億円減少(税効果反映後)
適用前(2020年度)	2020農年(2019年10月-2020年9月)の売上見合い値引きのみ計上
適用後(2020年度)	上記に加え、2020年10月-2021年3月の売上見合い値引き15億円追加計上

http://www.nissanchem.co.jp/ir_info/index.html



日産化学株式会社

印刷する 文字サイズ: あ あ あ

会社情報 事業・製品 研究開発 IR情報 サステナビリティ 採用情報

IR情報
投資家の皆様へ
もっと日産化学を知っていただくために

ホーム > IR情報

IR新着情報 ▶ 新着情報一覧

- 2025年02月07日 [2025年3月期 第3四半期 決算短信](#) (413.1KB)
- 2025年02月07日 [2025年3月期 第3四半期 決算説明資料](#) (1.8MB)
- 2025年02月07日 [業績予想の修正に関するお知らせ](#) (108.8KB)
- 2025年01月20日 [主要3社のIRサイト調査にて高い評価を獲得](#) (781.6KB)
- 2024年12月16日 [自己株式の取得結果及び取得終了に関するお知らせ](#) (120.1KB)

株主・投資家の皆様へ 中期経営計画 (経営戦略) **IRメール配信のご登録**

経営方針 日産化学について

> 株主・投資家の皆様へ > 役員一覧
 > 組織図 > コーポレートガバナンス
 > 個人投資家の皆様へ > 財務
 > 中長期計画 (経営戦略) > 歴史
 > 製品

- ・IR新着情報
- ・個人投資家の皆様へ
- ・経営方針
- ・業績・財務
- ・株式情報
- ・IRカレンダー
- ・株価情報
- ・最新資料ダウンロードなどを掲載しています

IRに関する最新情報について、
メールでお知らせします。
ぜひご登録ください。

<https://www.nissanchem.co.jp/mail/index.html>

セグメント		製品名	主用途
化学品	ファインケミカル	テピック	エポキシ樹脂: ソルダレジストインク材料、LED封止材等、粉体塗料硬化剤
		メラミンシアヌレート	難燃剤
		環境化学品	プール、浄化槽用殺菌消毒剤
		ファインオキシコール	化粧品原料、潤滑油原料、電子材料用接着剤原料
	基礎化学品	メラミン(22年12月販売終了)	接着剤
		アドブルー®	ディーゼル車排ガス浄化用高品位尿素水
		高純度硫酸	半導体用洗浄剤
機能性材料	ディスプレイ	サンエパー	液晶配向材用ポリイミド
		(主要モード) VA	Vertical Alignment: テレビ
		IPS	In-Plane Switching: スマートフォン、タブレット、PC、モニター、車載
	半導体	ARC®(KrF, ArF)	半導体用反射防止コーティング材
		多層材料(OptiStack®)	半導体用多層プロセス材料(Si-HM, SOC)
		EUV材料	EUVプロセス材料(下層膜、Si-HM)
	無機コロイド	スノーテックス	コロイダルシリカ: 研磨剤(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等)、特殊鋼板
		オルガノゾル・モノマーゾル	有機溶媒・モノマー分散シリカゾル: フィルム表面処理、電子機器、樹脂添加剤
		オイル&ガス材料	シェールオイル・ガス採掘効率向上材
	農業化学品	除草剤	タルガ
パーミット			とうもろこし、さとうきび、稲
ラウンドアップ			非選択性茎葉処理除草剤: 非農耕地、果樹園
アルテア			稲
殺虫剤		グレーシア	野菜、茶
殺菌剤		ライメイ	ばれいしょ、野菜、ブドウ
		ダイセン(マンゼブ)	果樹、野菜
動物医薬品		フルララネル	ペット用外部・内外部寄生虫薬BRAVECTO®、鶏・牛・羊用EXZOLT®原薬
ヘルスケア		リバロ原薬	高コレステロール血症治療薬
	ファインテック	課題解決型受託事業および共同開発型事業	

※ アドブルー®はドイツ自動車工業会(VDA)の登録商標 ※ ARC®およびOptiStack®はBrewer Science, Inc. の登録商標
 ※ BRAVECTO®およびEXZOLT®はMSD の登録商標

本資料に記載されている将来の当社事業に関する見通しは、資料作成時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、将来の当社業績を保証するものではありません。様々な不確実要素により、実際の業績は予測と大きく異なる結果になる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断で行われるようお願いいたします。

本決算説明資料に掲載されている全てのコンテンツは、日産化学株式会社が所有しています。
